



日高町門別図書館郷土資料館

北海道の太平洋側の中心、南にとんがっている襟裳岬へ向かう地方が日高地方。札幌から苫小牧を經由して東南に向かうと日高の入口、日高町に到着します。以前なら苫小牧から様似まで日高本線が走っており、海沿いをひたすら走るとも景色の良い路線でした。しかし2015年、高波による路盤土砂の流出が発生し、以降運休となります。2021年鷗川～様似間廃止。現在も破損した線路をあちこちで見ることができます。

日高町は2006年に旧日高町と旧門別町の合併により、新「日高町」が誕生します。太平洋の海沿いが旧門別町、平取町を越え山間部に入ると旧日高町となります。つまり飛び地自治体になっています。人口は約11,000人。9割は海側の門別地区に集中しています。平取町も合併するかという議論もあったようですが、最終的に現在の形となりました。

札幌から日高方面へは高速バス「ペガサス号」のルートがポピュラーですが、今回は札幌から帯広、釧路方面に向かう特急に乗り1時間半。占冠で下車して駅前から町営バスで約30分、日高町日高地区に到着します。日高バスターミナルの目の前に日高町立日高図書館郷土資料館があります。初めての訪問です。

寄贈図書で1991年発行『阪神タイガース昭和のあゆみ』3冊セット本を見つけました。1985年のバース、掛布、岡田選手らが活躍して優勝した写真がてんこ盛り。これはファンにはたまりません。もちろん藤村や村山選手などのレジェンド写真や記録も。まさか日高でタイガースの豪華本に触れられるなんて。

またこの春正規職員で司書を採用とのこと。今後に注目です。

日高ターミナルからバスに乗り、平取町を越え太平洋に向かうこと約2時間で旧門別町に。途中、車内放送では日本語とアイヌ語でアナウンス。アイヌ語の響きはとても心地よいです。「富川市街」で下車。沙流川を渡り15分ほど歩くと目的地、日高町立門別図書館郷土資料館に着きます。橋の上からドーム型の建物が見えてきます。

入館するとすぐ右に郷土資料館。正面の自動ドアを入ると競馬や乗馬など馬関連の雑誌が、ど〜んと面だしで来館者を迎えます。馬の町なので当然です。ヘリコプターで牧場に来る方もいるそうで、とてつもない単位のお金が動いているのかもしれない。

「ウマ娘」のコミックなども充実。とにかく馬に関する資料はなんでも揃えています。

橋から見えたドームの中は児童書コーナーになっています。とても天井が高い。室内はもち

ろん丸いので、書架は扇形になっています。ウルトラセブンに出てくる宇宙船の内部のような作りです。前回訪問した時は怖い本を書架の両サイドに面だして並べ、通路を通るだけで子供心を突いた企画をやっていました。

アイヌ交付金で図書や移動型パネルを購入。このパネルは直接書いたり消したりできて、マグネット使用可。本を自由に面だし出来る優れものです。どの図書館でも採用したら良いのにと思いました。

さらに、札幌に本社を持つ「エアウォーター北海道株式会社」の道内自治体への支援事業へ参加。自然観察キットと関連図書を購入して講習なども積極的に行なっています。エアウォーターは図書館以外の公共事業にも参加できるので、インフラや農業など多岐に渡ります。当館の敷地面積はとても広いので、敷地内の草や花の観察をすることで調べ学習や地域の自然を学ぶ機会にもなります。どこの図書館でもアレンジすればいろいろな企画ができますよね。

自分は時間の許す限り郷土資料館にお邪魔しています。こちらの資料館では現在学芸員が図書館にいるので、連携は更に強化。町内に昔あった茅葺き屋根の家を館内に移動して復元。見せるだけじゃなくて家の中へ誰でも入れるようにしています。そこで昔話の読み聞かせなどを開催！囲炉裏など実物があるのでとてもリアルにストーリーを伝えることができます。このように各地で郷土資料館をどんどん活用してほしいです。

帰りのバスは「ペガサス号」。乗車して鷗川に到着したら突然職員数名がバスに乗りこみ、何だか説明していたのですが、寝ぼけていて聞き取れず。その職員からアクリルフォトスタンドと、バスのミニカーの日高広域公共バス限定ノベルティをもらいました。

あとでわかったのですが、このノベルティ対象は、対象路線・便、配布期間に自分が乗車したバスだったのです。

免許は持っていませんが、とても小さなバスを1台所有できました！

2025年3月訪問

加藤 重男